

予 算 要 求 資 料

令和 8 年度当初予算

支出科目 款：警察費 項：警察活動費 目：刑事警察費

事業名 地域安全活動対策費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

警察本部 生活安全部 生活安全総務課 電話番号：058-271-2424 (内3011)
 人身安全対策課 電話番号：058-271-2424 (内3411)
 少年課 電話番号：058-271-2424 (内3062)
 E-mail：c18873@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 6,287 千円 (前年度予算額： 6,266 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	6,266	1,484	0	0	0	0	0	0	4,782
要求額	6,287	1,522	0	0	0	0	0	0	4,765
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

刑法犯認知件数は、平成14年をピークに減少してきたが、令和4年に増加へ転じた。加えて、子供や女性に対する犯罪やその前兆となる声かけ事案は後を絶たず、高齢者を中心とした特殊詐欺被害の深刻化、防犯ボランティア活動の活性化など犯罪の未然防止に向けての課題は多くあり、引き続き地域安全活動を推進する必要がある。

(2) 事業内容

- 安全・安心ステーション事業
防犯ボランティア団体への活動支援により、団体活動の活性化を図る。
- 青色防犯パトロール活性化事業
防犯パトロール団体に対して実施者証を交付するなどの支援を行う。
- 若い世代の参加促進、自主防犯ボランティア支援事業
「防犯ボランティアフォーラム」を開催し、各世代のボランティア活動の紹介や意見交換を行い活動の活性化の拡大を図る。
- 街頭犯罪多発地区対策支援事業
防犯設備士の資格取得した警察官による住宅等の防犯指導を行うなどして住民に対し防犯意識の高揚を図る。
- 少年警察ボランティア活動支援事業
少年警察ボランティア活動支援により、地域における少年の非行防止と健全育成を図る。
- 認知症を有する行方不明者等への対策
認知症の高齢者が関わる事案に対して適切に対処するため、認知症に関する知識や対処能力を向上させる。

(3) 県負担・補助率の考え方

県内の子供の連れ去り防止や防犯ボランティア団体への支援活動などに要する負担であること、また、国庫補助対象事業については他の対象事業と同様の割合で国庫を充当しており、県負担は妥当である。

(4) 類似事業の有無

無し

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
需用費	4,996	各種防犯広報チラシの作成など
役務費	611	ボランティア団体傷害保険料など
その他	680	ボランティアフォーラム開催経費など
合計	6,287	

決定額の考え方

4 参 考 事 項

各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略

Ⅱ-2-(2)-⑤ 犯罪・交通事故防止の推進

事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 子供・女性・高齢者を犯罪から守るための諸対策の推進
 防犯ボランティア団体等への支援及び活性化
 認知症高齢者等に対する適切な対応

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①防犯ボランティア団体数		1,152件				
②地域安全巡回指導教育班派遣		424件				

○指標を設定することができない場合の理由

高齢者、子供及び女性を守る地域安全活動に要する負担であり、目標を設定することは困難である。

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	安全・安心ステーション指定24団体へ活動支援、警察活動協力員531人による防犯パトロール等の実施及び青色防犯パトロール実施者支援などの活動により県民の安全・安心な生活を維持することができた。 地域安全巡回指導教育班による連れ去り防止教室を316回開催、28,680人が受講し、子供への防犯意識と危機管理能力を高めることができた。
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和5年度	安全・安心ステーション指定24団体へ活動支援、警察活動協力員531人による防犯パトロール等の実施及び青色防犯パトロール実施者支援などの活動により県民の安全・安心な生活を維持することができた。 地域安全巡回指導教育班による連れ去り防止教室を401回開催、32,144人が受講し、子供への防犯意識と危機管理能力を高めることができた。
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和6年度	安全・安心ステーション指定34団体へ活動支援、警察活動協力員525人による防犯パトロール等の実施及び青色防犯パトロール実施者支援などの活動により県民の安全・安心な生活を維持することができた。 地域安全巡回指導教育班による連れ去り防止教室を424回開催、40,309人が受講し、子供への防犯意識と危機管理能力を高めることができた。
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	「安全・安心な「清流の国ぎふ」づくり」を目指す事業として、必要性は高い。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	これまでの取組により、防犯ボランティア団体の活動は活性化している。子供の安全対策として、これまでの取組に加え、性被害予防教室を重点的に実施している。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 1	各種業務は、被害の未然防止に向けて積極的・効率的に実施しているとともに、経費の節減にも努めている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 これまで順調に減少してきた刑法犯認知件数が増加に転じ、加えて高齢者や子供、女性が被害者となる犯罪も後を絶たず発生していることから、今後とも犯罪の未然防止活動や子供の危機管理能力を高める活動、防犯ボランティアへの活動支援は課題となる。
--

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 犯罪のない安全で安心な地域社会の実現に向けて、高齢者や子供、女性が被害者となる犯罪や声かけ事案などの前兆事案に対する適切な取組を今後も継続して推進していく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	